

インターンシップの手引 (初めての企業向け)

目次

1. 本手引きの目的	2
2. インターンシップの意義と重要性	2
3. インターンシップ全体の流れ	3
4. インターンシップの計画	4
5. 募集の方法	5
6. 選考の方法	5
7. インターンシップの実施	6
8. インターンシップの評価	6
別紙-1 カリキュラム(例)	6
別紙-2 募集要項(例)	7
別紙-3 誓約書(例)	8

茨城大学工学部

1. 本手引きの目的

本手引きは、次の2つのことを目的として作成したものである。

- (1) 初めてインターンシップの学生受入れを行う企業が、インターンシップ実施に際し参考となること。
- (2) 受入れ企業（官庁、諸団体を含む）、大学および学生がインターンシップ制度について広く共通の認識を持つための情報を提供する。

2. インターンシップの意義と重要性

2.1 インターンシップの意義

インターンシップとは「学生が、在学中に自らの専門や将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」である。

受入れ企業にとっては次のような意義がある。

- (1) 実社会への適応能力の高い学生の育成に寄与することができる。
- (2) 企業の内容について、大学・学生に理解してもらうPRの機会となる。
- (3) インターンシップを通じて、企業サイドのニーズを学校側に伝えることができる。

また、学生及び大学にとっては次のような意義がある。

- (1) 学生が、自己の職業に対する適性や将来設計について考え、主体的な職業選択や職業意識を向上するのに役立つ。
- (2) 学生にとって、学習の方向付けができ、学習意欲を高めることができる。
- (3) 大学にとって、企業・学生の体験した声を参考にして、教育内容の充実、教育方法の改善が図れる。

2.2 インターンシップの重要性

一般に大学新卒者の就職後3年以内の離職率が約30%であり、日本社会の大きな損失となっている。この背景として次のようなものがある。

- (1) 高等教育の大衆化により、漠然と大学へ進学する者が大幅に増えた。
- (2) 大学新卒者の採用活動の早期化により、職業観の準備不足のままに就職活動に臨んでいる学生が多くアンマッチ就職を招いている。
- (3) 大学教育が専門性重点になり、キャリア教育が十分とはいえない。などがある。

ヨーロッパの多くは、社会人を経験してから再び高等教育を受けることが容易な社会となっているが、日本ではいまだ難しい状態である。

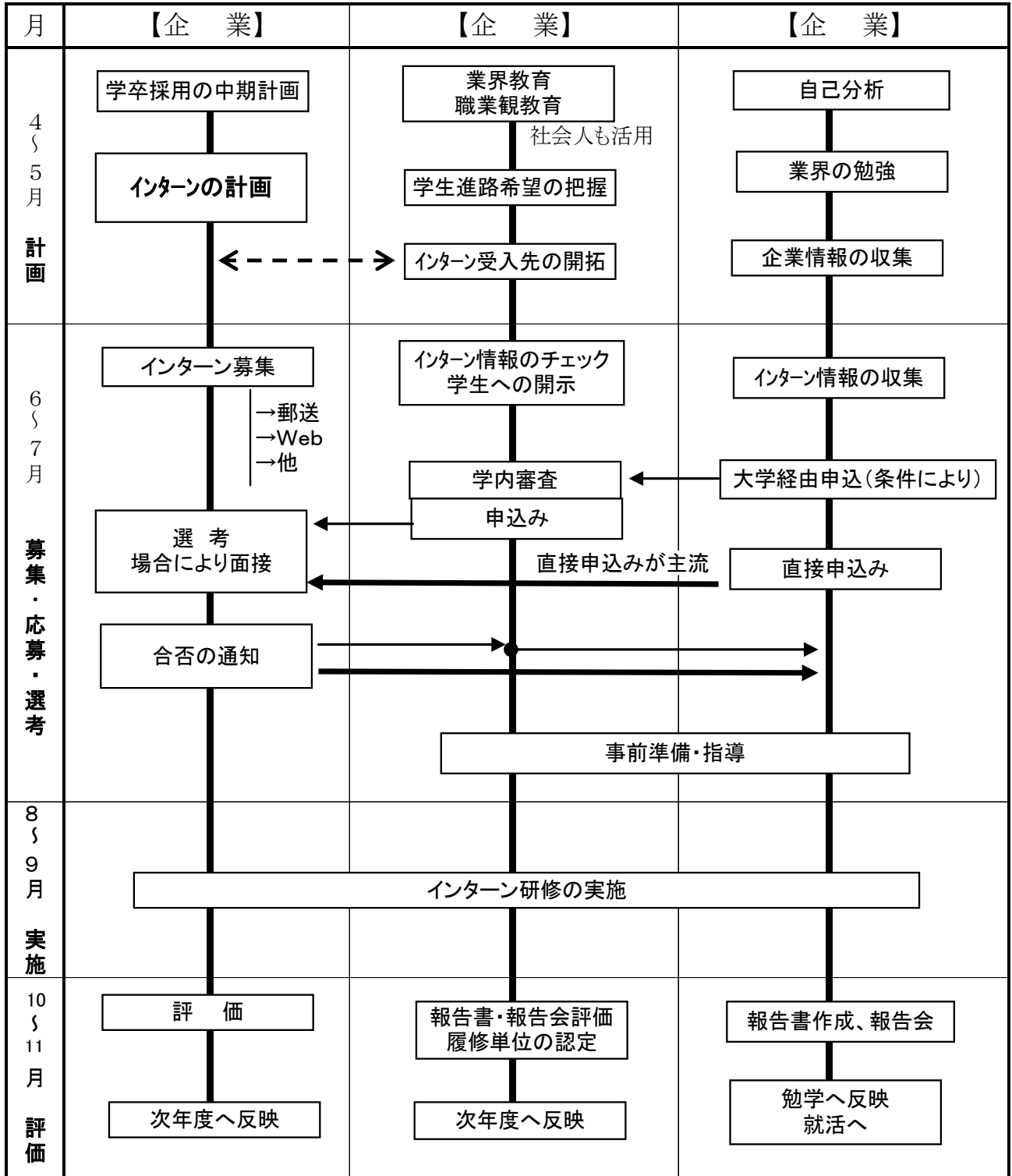
そこで日本における現実的な対応としては、1997年頃から一般化してきたインターンシップ制度を充実させることが、離職率低減に大きく貢献するものと考えられる。

3. インターンシップ全体の流れ

企業等・大学・学生を関連づけたインターンシップの流れを表-1 に示す。

表-1 インターンシップのフロー

(注) インターンシップをインターンと略す
学生は、学部3年生を例に示す



4. インターンシップの計画

インターンシップは学生育成という社会貢献のひとつであるが、企業（特に中小）としては、採用活動の一環と考えて対応するのが現実的であり、自社にふさわしい学生の採用につながればベストである。学卒の採用人数に限られる中小企業においては、インターンシップの募集計画に工夫を凝らす必要がある。

インターンシップの計画は、今後2～4年間に採用予定がある場合に取り組むのがよいと思われる。計画について留意すべきことを以下に示す。

(1) 採用したい学生の技術分野を明確にしておき、後述の募集要項に生かす。

茨大工学部には次の8学科あり、知能システム工学科には勤労学生のためのBコース（夜間制で学部4年と同じ）が併設されている。

No	学 科	内 容
1	機 械 工 学 科	機械基本のものづくり
2	生体分子機能工学科	応用化学と生命工学
3	マテリアル工学科	材料全般、界面化学、表面処理
4	電気電子工学科	強電、弱電、半導体
5	メディア通信工学科	各種情報の通信技術
6	情 報 工 学 科	コンピュータ、ネットワーク、ソフトウェア
7	都市システム工学科	土木工学、都市計画
8	知能システム工学科	メカトロニクス、ロボット

(2) インターンシップのテーマを考える。

インターンシップには、単に職場を体験してもらうものと、テーマを与えて解決案を考えさせるものの2種類あるが、採用につなげたい場合は後者がよい。その場合考慮する事は、は学生の力量・人柄を観察できる、自社の事業内容を理解してもらえる、仕事力が向上する、などである。

(3) 人数を考える。

採用を考えている技術分野1件に対し2～3人募集を考えるのがよい。インターンシップにかかる手数は、学生が1人でも3人でも、同一テーマで行なう場合は同じである。複数の学生が同一テーマで行なうと、上司とのコミュニケーションに加えて、仲間とのコミュニケーション、チームワークの力を観察することができる。

(4) 時期と日数を考える。

表一に示しようにインターンシップの多くは夏休み中（8/1～9/30）の実施であり、募集は5～7月に行なわれる。大企業の選考が7月中旬までであるので、募集〆切を8月上旬にし、実施は9月にするのがよいように思われる。日数は茨大学生の場合、履修単位を貰えるのが10日以上なので、10日以上が望ましいがそれ以下でもよい。

(5) 指導者を設定する。

指導者は、学生を採用した場合、配属を予定している部署の管理者が望ましい。しかし時間の制約等で困難な場合は、外部機関の支援を仰ぐことも考えられる。

(6) カリキュラムを考える。

テーマ及び日数に応じたカリキュラムを設定する。これは学生の希望や途中経過の状況により途中変更も考える。テーマ解決型と職場体験型のカリキュラム例を（別紙一１）に示すので参考にされたい。

(7) 待遇について。

インターンシップの学生に関わる費用は、学生負担が原則である。

しかし実態としては、昼食代及び通勤費を企業が負担している例が多い。

(8) 傷害保険について。

万一の怪我や製品・設備破損に備えて、学生自身が保険に加入していることを募集条件にする必要がある。この保険は『学生教育研究災害傷害保険』（略称学研災）及び『学研災付帯賠償責任保険』（略称インターン賠）である。

これらの事を含めた、インターンシップ募集要項例を（別紙一２）に示すので参考にされたい。

5. 募集の方法

募集の方法には3つの方法がある。限られた2、3の大学に対する募集でよいと考えるなら、(1)が最良である。

(1) 募集要項を直接郵送する（茨大の宛先は裏表紙参照）

(2) 茨城県経営者協会のインターンシップ受入企業へ登録する。この場合は会員になる必要がある。

(3) 『リクナビ』に代表されるWeb業者のホームページに募集を登録する方法があるが、全国規模でありかなりの費用になる。

6. 選考の方法

応募者が多数になった場合は選考することになるが、応募対象者を絞って募集してあれば先着順でもよいと思われる。選考する場合は『自己PR』を十分に評価するのが良い。

合否の結果は、直接学生にEメールで通知するのが一般的である。

7. インターンシップの実施

- (1) インターンシップの実施で注意すべきことは、先ず安全である。初日に必ず安全教育を実施する。機密漏えい防止に留意する必要がある場合は(別紙一3)のような誓約書に同意署名をもらう。
- (2) 実施は指導者が中心になって、カリキュラムに従って順次実施するが、新入社員ではないので自分からの説明は基本的なことに留め、質問があった場合は細かく対応するように気をつけなければならない。学生の自由な発想を制限せずに考えを纏めさせる。期限を守る重要性を体験させることも必要であるが、手伝って無理にまとめる事は避けるべきである。
- (3) 最終日には関係者への報告会を開き、学生の報告を傾聴するとともに、就業力向上につながるコメントをしてやるのが大切である。これは自社への関心をいっそう高めることになると思われる。

8. インターンシップの評価

インターンシップ終了後は、速やかに反省点と改善案の書き出しを行い次回の参考にする。またインターンシップに参加した学生が自社が望んでいるタイプの学生であった場合は、それなりの感想を伝えるなり連絡を取るのが望ましい。学生にとっては4年生の勉学(卒業論文テーマ)や職業観の参考になるものと考えられる。

研修カリキュラム (例)

(別紙一1)

【テーマ解決型の例】

【職場体験型の例】

日次	機械部品製造 機械加工の効率向上	電子製造部 電子製品生産の理解
1日目	オリエンテーション 会社概要、安全教育、工場見学	オリエンテーション 会社概要、安全教育、工場見学
2日目	テーマの説明、工程管理説明	各部門の業務分担
3日目	テーマ該当職場調査	セールス随行
4日目	テーマ該当職場調査	製造現場手伝い
5日目	中間まとめ、検討会	中間まとめ、検討会
6日目	稼働分析等の助言	売上台帳集計手伝い
7日目	テーマ該当職場調査(稼働分析など)	外注廻り随行(進捗確認)
8日目	テーマ該当職場調査(稼働分析など)	倉庫業務手伝い
9日目	研修まとめ	研修まとめ
10日目	研修報告会、質疑応答	研修報告会、質疑応答

〇〇(株) インターンシップ募集要項 (例)

〇〇(株)は、通信機器の製造販売事業を展開しています。
 本年度のインターンシップ受入を、下記により募集いたしますので、就業体験による職業観の育成・
 キャリア形成にご活用下さい。

No	項目	内 容	
1	受入れ時期	平成〇〇年 〇月〇日～〇月〇日(勤務 10 日間)	
2	勤務時間	午前8:30～午後5:00	
3	受入れ人数	3 名	
4	受入れ職場	〇〇製造部	
5	研修テーマ	機械加工の効率向上	
6	対 象 者	学校等	大学学部 3 年、 高専 4 年
7		学科	機械工学科 系
8		必要資格	精密加工に関心が深い人、パワーポイントが使える人
9		機密保持	研修で知りえた情報の機密を守れる人
10	性別	問わない	
11	傷害保険	インターン賠に加入済みの人(初日に加入証明コピー提出)	
12	服装	所定の作業服、帽子を貸与する	
13	待 遇	日当	昼食代補助として 1 日 500 円支給
14		通勤費	公共交通機関の費用を支給
15		赴任・帰任旅費	なし
16		宿泊費	なし
17	選考方法	1次選考:書類選考、 2次選考:なし	
18	合否連絡	〇月〇日迄に学生宛 E メールで連絡	
19	応 募 方 法	申込〆切り	〇〇年8月10日
20		経由	学校経由不要
21	申 込 み 書 類	用紙は A4 とし様式は自由	④学校、学部、学科、学年
		①氏名(ふりがな)	⑤自己 PR
		②生年月日、性別	⑥電話番号
		③現住所	⑦E メールアドレス
22	提 出 先	下記宛てに郵送または、Eメールで送る	
		〒xxx-xxxx 日立市〇〇町〇〇	
		〇〇(株) 総務部 〇〇 〇〇	
		Eメール: zzzz@zzzzz.zz.zz	
23	問 い 合 わ せ 先	〇〇(株) 総務部 〇〇 〇〇 (電話 xxx-xxx-xxxx)	
		Eメール: zzzz@zzzzz.zz.zz	

誓約書（例）

（別紙-3）

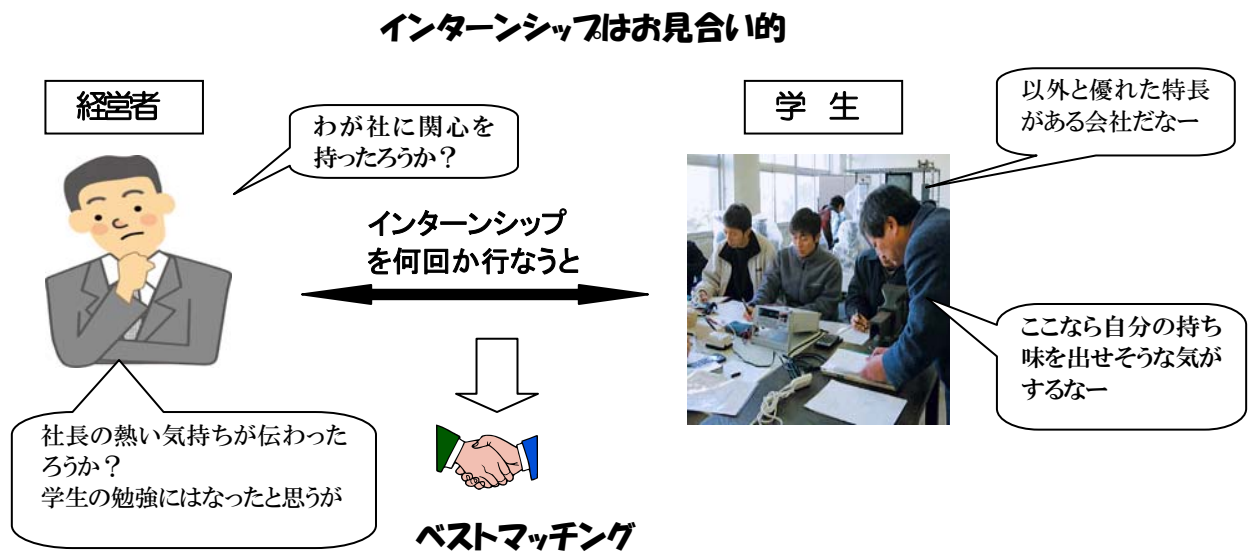
（株）
殿

年 月 日
氏名〇〇 〇〇 印

今般、私が貴社のインターンシップにつきまして、下記事項を守る事を誓います。

1. 実施期間中は、貴社の就業規則及び諸規則の定めに従う。
2. 実施期間中は貴社の管理者の指示に従う。
3. 特に次の事項を厳守する。
 - (1) インターンシップで知りえた機密に属するものは一切漏洩しない
 - (2) 貴社の名誉を毀損するようなことは行わない。
4. 故意または過失により、貴社に対し損害を与えた時は直ちに弁償する。
5. インターンシップ中に、万一災害を受けた場合の処置については、貴社に迷惑をかけることなく自己の責任において処置する。

以上誓約致します。



インターンシップの手引き（企業向け）

発行 2011年3月 茨城大学工学部
〒316-8511 日立市中成沢町4-12-1
電話 0294-38-5009（学務第一係）